

阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる

阿弥陀さまを敬うところを育む。
合掌礼拝の姿を身につける。

新しい年度がスタートします。新入園の子どもたちと保護者の皆さんの中には「まことの保育」という言葉にとまどいを感じておられる方もあるかもしれません。園の中にお仏壇があったり、仏さまのお姿があることの違和感もあるかもしれません。仏さまやお釈迦さまは知っているけれど、阿弥陀さまは知らない方も少なくないでしょう。大切なわが子を預けられる保護者にとって、この園がどんな子育てをしてくれるのか心配になりますね。

私どもの園では辞令交付式を4月1日に行っています。新規の職員も継続の職員も含めて全員を対象とします。入園式の前にまず職員に「まことの保育」で大事にしていることをしっかり伝えます。それは「子どもたちが大切にされると感じられる保育を常に心がけること」です。4月の登園風景は「ママがいい」と泣き続ける子どもたちによって特徴づけられます。母親は職場に行っても泣き声が耳から離れない時間を過ごすことになります。園でお子さんたちをお預かりする先生方も必死だと思います。

私事ですが、娘が1歳から2歳になる1年間を単身で過ごし仕事したことがあります。同居を再開すると同時に母親である連れ合いは新しい職場で働きはじめました。その歓迎会があった日のことです。お世話になり始めたばかりの保育園に私が迎えに行くと、夕方の時間を過ごすことになりました。保育園で我慢して家に帰ったら母親はいないのです。娘が泣き始めました。どんなにだめても抱っこしても散歩に連れ出そうとしても泣きやみません。ほとんどパニック状態です。「お母さんがいい」とだけ言い続けていました。私は「お父さん」という名の他人であったと、そのとき知らされました。一番の安心基地はなんといっても母親でした。泣き続ける娘をなだめながら、娘との信頼関係を築く覚悟をそのとき胸に誓いました。私もお母さんと同じように大切にしているんだよと娘に伝わるよう子育てしようと思いました。

「まことの保育」では、園児みんなが「仏の子」です。そして阿弥陀さまに手を合わせます。阿弥陀さまは一人ひとりを優劣をつけず分け隔てしないで、一人ひとりが輝けるようにいつも願っていただく仏さまです。子どもたちに関わる私たちも、阿弥陀さまの願いを受けて一人ひとりが輝けるように努めます。

私たちには笑顔が備わっています。これは社会生活を営むヒトが進化の過程で手に入れた大きな財産だといわれます。先生方にとっては子どもたちが向けてくれる笑顔が、大きな喜びになっています。ママがお迎えに来てお子さんの笑顔にであえたら、お仕事への何よりのご褒美になります。ギュッと抱きしめたくくなりますね。お家の方と協力して、子どもたちの笑顔があふれる保育を目指していきましょ。

まことの保育の願い